

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2016.07.No227

7月号

目次

第41回 一般社団法人 北海道建築士会 全道大会（室蘭大会） “来たれ建築士、道南は西いぶりへ！”……1
青年・女性の窓……………5 〔青年委員会〕
実行委員会報告……………6 〔ヘリテージ特別〕
Coffee Break……………7
information……………8

URL <http://www.h-ab.com/>

第41回 一般社団法人 北海道建築士会全道大会（室蘭大会） “来たれ建築士、道南は西いぶりへ！”

■大会テーマ 「鉄と湯けむり・大地のめぐみ」

■サブテーマ —西いぶり共生の未来—



第41回 一般社団法人北海道建築士会全道大会実行委員長

室蘭支部 支部長 半崎 敏裕

第41回北海道建築士会全道大会の舞台が、道東ブロックは紋別オホーツクの海から、道南ブロックは太平洋に面する室蘭に引き継がれました。

室蘭大会は3度目となります。今回は第26回大会で、サミットを含めて3日間開催で、16年前でした。当時の資料をめくりますと、大会参加者は500名を越えておりました。青年サミットは参加者160名余り、そして、5つの分科会でした。今、規模は小さくなり

ましたが、内容の濃い大会となっております。室蘭支部は、西いぶりの3市3町の集合であります。ご存知のように太平洋そして噴火湾に面し、海の幸の宝庫であり、農業も野菜作り、酪農も盛ん、国内有数の製造業、又、世界的にも有名な観光産業の登別温泉、洞爺湖温泉、暮らしに欠かせない高度医療施設、福祉施設、そして教育機関が揃っており、西いぶりだけで独立出来るのではと思うほどです。

今、道内のどの地区を見ても少子高齢化の波が押し寄せ、西いぶりも近い将来、広域合併という問題が再燃することでしょう。行政では広域連携は早くから行われております。そして今年には新幹線元年となりました。今、観光産業が注目されております。世界の国々から多くの観光客が来道しております。我々建築士が皆さんのマチ、その周りのマチ、広域でどんな関わりを持つべきか、室蘭で語ろうではありませんか。

室蘭いや、西いぶりが皆さんをお待ちしております。

[大会プログラム]

月 日	時 間	開 催 内 容	会 場	
9月30日 (金)	13:00~13:30	青年サミット 受付	室蘭建設会館 1階 大会議室	
	13:30~17:30	青年サミット テーマ：『鉄のまち室蘭からものづくりの原点を感じる』		
	18:30~20:30	懇親会		ろばた焼 番屋
10月1日 (土)	10:30~12:00	来賓・大会参加者受付開始	蓬峯殿 1階 ロビー	
	11:30~12:30	昼食	蓬峯殿 1階 瑞節の間	
	12:30~14:30	分科会 A分科会 (女性委員会) B分科会 (まちづくり委員会) C分科会 (青年委員会)	蓬峯殿 2階 銀河・光耀の間 蓬峯殿 2階 翔運・慶雲の間 蓬峯殿 1階 明庭の間	
		15:00~16:30	大会式典	蓬峯殿 1階 黎明の間
		16:50~18:00	基調講演	蓬峯殿 1階 黎明の間
	18:30~20:30	懇親会	蓬峯殿 1階 エクセレントホール	

A分科会 素材～天然素材のほたて貝～西いぶり編

女性委員会

西いぶりには、様々な自然（海・山・湖）や温泉が存在し、人々はそれらから豊かな恩恵を受け生活しています。周囲に活火山が多いため名づけられた「噴火湾」。そこに面した室蘭市・伊達市・豊浦町などではホタテの養殖も盛んに行われています。

A分科会では継続して取り組んでいる「素材」において、道内で多く産出されるホタテ貝殻を活用した「ほたて漆喰」に焦点を当てます。「漆喰」は、日本で古来より用いられている伝統的な左官材料であり、その質感は見る者に安らぎを与えてくれます。その中でも「ほたて漆喰」は、ホタテ貝特有の多孔質構造により、消臭・調湿性に優れた材料といわれています。自然と人との共生、北海道における地材地消について学び、自然の恵みを建築に活かす方法と建築士が自然素材を消費者へつなぐ役割について考えていきます。

B分科会 歴史×観光×ものづくり～室蘭のまちづくりから学ぶ～

まちづくり委員会

「鉄のまち室蘭」と称されるほど鉄のイメージが強い室蘭市。ところが、「海」「山」「工場夜景」などの観光資源もあり、また道内への、石炭の積出駅や港として栄えた歴史のあるまちでもあります。かつては人口18万人以上を有し、人口密度が北海道内で最も高い活気のあった時期もありましたが、現在は10万人を割り人口減少が続いています。

B分科会では、そのような現在の室蘭において、「歴史×観光×ものづくり」という視点から“まちづくり”を積極的に行っている方々にスポットを当て、その活動内容を学ぶとともに、今後の室蘭はどうあるべきか？ そのためには何が必要なのか？ など、参加者も含めたディスカッションの場を設け、今後のまちづくりの可能性を探っていきます。

C分科会 避難所運営ゲーム（HUG）を通して、建築士の役割を考える

青年委員会

東日本大震災から5年、東北の被災地で復興が進む中、今年4月に熊本地震が九州を襲いました。まだ混乱が続く中ではありますが、私たち建築士が出来ることは何かを、今こそ考えなければならぬと感じています。北海道も例外ではなく、根室での高潮被害やオホーツク管内で起こった暴風雪も記憶に新しい所です。災害による被害を最小限にとどめるには、災害にどう備えるか、いざという時にどう行動するかを日頃から考えておくことが大切です。C分科会では、建築士として防災・減災のために、仕事の中で又は地域の中で出来ることは何かを考え、被災した時にどう行動すれば良いかを、避難所運営ゲーム（HUG）を通して考えていきます。

※HUGは、H（hinanzyo避難所）、U（unei運営）、G（gameゲーム）の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。ゲームという言葉が使われていますが、遊び感覚ではなく、避難所運営を学ぶための有効な研修です。

号外 情報委員会は今年も号外を発行！

あなたの知っている室蘭、あなたの知らないMURORAN、
大会のドキドキ、わくわく、再発見をお届けします。

基調講演

テーマ：『映画と私とふるさと西いぶり』

講師：映画監督 坪川 拓 史 (つばかわ たくし 1972年2月25日生)



北海道長万部町出身の映画監督。俳優、アコーディオン奏者。室蘭市在住。1990年に上京し、日本工学院専門学校に入学するが、中退。2011年より室蘭市に移住。串田和美主宰の劇団「オンシアター自由劇場」に入団し、研究生となる。その時オーディションで楽器が出来るか問われ、咄嗟に「アコーディオンが出来ます」と言ったことからアコーディオンを始める。役者を経て自ら映画製作も始め、1995年に無声映画『十二月の三輪車』で監督デビュー。現在、『モルセラニの霧の中』という映画撮影を行い、西胆振を中心に地元の魅力の世界に発信すべく、また住人自らが企画、製作に一から関わり、さらに助演も務めて銀幕デビューを目指すプロジェクトを進行中。

■エピソード：1作目「美式天然」は「第23回トリノ国際映画祭」長編コンペティション部門に招かれ「Best Feature Prize (グランプリ)」 「Best Audience Prize (最優秀観客賞)」のW受賞という日本人初の快挙を成し遂げる。

青年サミット

「鉄のまち室蘭からものづくりの原点を感じる」

■テーマコメント

室蘭の現在は、一般的な地方都市同様、産業の衰退・社会情勢の変化と共に人口が減少し、空き家や少子高齢化等の問題を抱えています。しかし、優れた技術・技能と人材が集まり、「ものづくりの街」としての歴史は、今も尚刻まれています。

「ものづくり」の現場を体感することで、その原点を身体で感じてみよう。

どんな時代になっても、「ものをつくる」ということは人々の想いや夢をカタチにする大切な役割を担うから・・・

■プログラム

- 13:00~13:30 ■受付
- 13:30~14:00 ■挨拶・進行説明
- 14:00~16:20 ■新日鐵住金見学
- 16:20~17:25 ■旧絵鞆小・白鳥大橋見学
- 17:25~17:30 ■総評・事務連絡
- 18:30~20:30 ■懇親会

第41回全道大会（室蘭大会）会場ご案内



■大会・基調講演・分科会・懇親会・総合会場

蓬岫殿
室蘭市宮の森町1-1
TEL 0143-44-3338
専用駐車場 150台

■青年サミット会場

室蘭建設会館 1F 大会議室
室蘭市入江町1-74
TEL 0143-22-1045
専用駐車場 108台

■青年サミット懇親会会場

ろばた焼き 番屋
室蘭市中島町1-23-7
TEL 0143-46-2440
専用駐車場 なし

第41回 (一社)北海道建築士会全道大会 (室蘭大会) 参加申込書

	所属支部名	支部
ふりがな	ふりがな	
氏 名	同 伴 者	
住 所	〒 - TEL () - FAX () -	
勤 務 先	〒 - TEL () - FAX () -	

月 日	行 事 項 目	参加行事に○印を記入		参加料・代金 /人	金 額	備 考
		本 人	同 伴 者			
9月30日(金)	青年サミット			/	/	
	青年サミット懇親会費			5,000円		
10月1日(土)	大会参加費			4,000円		
	A分科会					
	B分科会					
	C分科会					
	基調講演					
	大会式典					
	昼食 (弁当)			1,000円		
懇親会			5,000円			
■ 各支部への申込締切りは8月31日(水)を厳守願います。				合計金額		

上記のとおり、関係費 円 を添えて申し込みます。

平成 28 年 月 日

[備考]

- ◎大会参加費は、青年サミットも含め大会参加者全員に納めていただきます。
ただし、会員外の同伴者は免除いたします。
- ◎関係費は、前納制とさせていただきますので、所要事項を記入し、費用を添えて各所属支部へ申し込んでください。
- ◎申し込みの取り消し及び変更は、9月16日(金)までとし、9月17日(土)以降の取り消しは返金できませんので、ご了承ください。
- ◎申込用紙は1名につき1枚、同伴者は連名にて料金を加算してください。(申込用紙はコピー可)

■大会の宿泊については、各自でお手配ください。

青年委員会

「青年建築士の集い」 (富良野大会)



～とびだせ全国大会へ！
地域実践活動発表選抜選手権～

青年委員

原 一彦 (旭川支部)

5月21日、富良野市ではこの時期としては珍しい30℃を超える晴天の中、83名の参加で「青年建築士の集い」が行われました。



今回は、今年大分県で開催される全国建築士フォーラムの北海道ブロック代表を決める選考会とし、道内各ブロック代表の4名に8分間でプレゼンを行っていただきました。その後、出席者全員が審査委員となり、以下の6項目について5段階評価し、ポイントとして換算・集計し公平に審査いたしました。

- ①着眼点・先進性
- ②企画力
- ③地域貢献度
- ④今後の期待度
- ⑤ローコスト度
- ⑥プレゼン力

青年委員会の事業方針である「スキルアップ」「地域貢献」「仲間づくり」に「ひろげる・つなげる」を加えたキーワードにあった活動を目指し、各ブロック・支部で自由な発想のもと実践してきた活動について発表していただきました。3月の連絡会議でも各支部での活動内容など、情報を公開し意見交換を活発に行い、地域実践活動のネタとなり、取り組みやすくなるよう会議を重ねてきました。今回の活動発表も、各支部の活動のヒントとなることを期待しています。

エントリー支部

- ・道央ブロック 札幌支部
パズルでお家を考えよう！
- ・道南ブロック 函館支部
木で遊ぼう！マイはし作り体験
- ・道北ブロック 名寄支部
発掘！地域の宝
- ・道東ブロック 釧路支部
誰でもできる折り紙建築

この地域実践活動選抜戦が行われるのは、平成16年青年建築士の集い(稚内大会)から約12年ぶりとなります。各ブロックの活性化が図られていたことから、「集い」に集まる青年に新たな企画で活動を広げたい、ということで選抜戦は開催されませんでした。当時は4ブロックから5支部の地域実践活動報告がありました。道北ブロックで休止し道北ブロックで再開することになるとは、何かの「つながり」かもしれません。

推薦状を手にしたのは、断トツの1位だった、道南ブロック代表函館支部「木で遊ぼう！マイはし作り体験」となり、高野会長より推薦状を受取り、意気込みを語っていました。大分で開催される全国建築士フォーラムでは、北海道代表として好成績を取られるよう期待し、皆様で応援に駆けつけましょう。他に発表いただいた3支部には今後さらに実践活動を充実し、リベンジして是非全国大会へ行ってもらいたいと思っています。



後半には、基調講演「オール市民でまちづくり」と題して、ふらのまちづくり株式会社 代表取締役社長 西本伸頭様にご講演をいただきました。行政に頼らず熱意をもってたくさんの課題に取り組み、戦略を地元の少数精鋭メンバーと立てて、フラノマルシェを成功させた過程を説明頂き、われわれ建築士としても、まちづくりや地域貢献のために青年としてで

きることを考え、地域の問題に少しでもかかわれるよう再度考えることとなりました。西本様の取り組みに対するパワーを感じるのできるご講演でした。



さらに「九州熊本・大分震災沉没レポート」を十勝支部 中鉢氏にお願いし、実際に応急危険度判定など行政として感じてきたことを、現地の写真を見ながらの説明がありました。都心部での活動でしたが、冒頭の高野会長のお話にもあったように応急危険度判定の重要性などを再確認できました。

終了後の懇親会では、乾杯を「富良野市まずはふらのワインで乾杯条例」があるということでワインで乾杯し、フラノマルシェの料理を満喫しました。余興を富良野支部さんをお願いし「ワイン飲み比べ選手権」を開催し大いに盛り上がりました。なんと優勝者は地元近くの上富良野支部代表者！いつもワインを飲んでいるということですね。稚内支部のお土産のウオッカはすごく好評でした。各支部さんお土産たくさんありがとうございました。



最後に、企画・運営をおこなっていただいた開催支部の富良野支部さまには少ない人員や多忙な時期に大変ありがとうございました。

来年の開催では地域実践活動報告になるかはわかりませんが、各ブロックや各支部での活動を継続してさらに良い活動報告を行えるよう皆さん頑張りましょう。

活動報告とおねがい

ヘリテージ特別委員会

委員長 関川 修司 (北広島支部)



本特別委員会は、道内各地に遺る地域資産（歴史資産）を利活用していただく方を支援する特別委員会である。文化庁の補助を受け北海道文化遺産活用活性化実行委員会の事業を行っている。この会は（一社）北海道建築士会、NPO法人歴史的・地域資産研究機構、北海道文化財保護協会の三者で構成され、①ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座事業、②地域資産普及啓発事業、③歴史資産の調査事業を行っている。このうち、本特別委員会は、①の事業を主に行っている。1年目は38人、2年目は51人の受講生があった。今年は何人だろうか。ともあれ、これだけの方が、地域の古い建物＝地域資産の利活用に興味を示してくれたと言うことだ。この気持ちに答えるのも、本会の仕事の内と思っている。

主に地域資産＝建築物・有形資産を対象に事業を行っていたのだが、2年目に、無形資産の調査も行うこととなった。戸惑ってはられない、建築の神様・諸芸の神様＝聖徳太子の太子講調査を始めた。

流石は建築士会である。34支部に調査票を配り、調査をお願いした。集まった調査票20件ほど、情報は100件を超えた。太子講は単に建築関係職の方が

集まるだけ、その集う場所が必要である。20件を超える太子講が判った。しかも、100年も経つという太子講が殆ど。無形資産が有形資産を生んだと言うことか。地域の職人さん方を育ててきた太子講は、寂しくなったとはいえ、まだ健在であった。嬉しかったのは、わざわざ手紙に写真をつけて、わがマチの太子講も見に来てくれと言う。行かねばなるまい。教えてくれた方は、先輩から引き継いだモノを私の代で終わらせたくないという。太子講も立派であるが、屋根の中央部分だけをトタンで葺きにして、職人の技を見せている。少数の方ではあるが、地域の資産を守ってくれている。時の経過とともに、モノは痛む。痛めば、修理が必要になる。マチに遺る文化財・地域資産・登録文化財なら、マチの建築士会員が修理できる。

古いモノの価値を見だし、登録文化財に申請して、地域資産を増やそう、治して、使えるように出来るのは我々です。そして、各支部の事業に取り込んで下さい。さらに、本部の地域貢献活動センター事業との連携も考えて下さい。

さて、今年も、太子講の調査に回ります。全道的に行うのは北海道建築士会が初めてです。会員諸氏にご足労をかけることもありますが、宜しくお願いします。

道士会の動き

新任事務局長紹介

建築士会への回帰

(一社)北海道建築士会
事務局長 石川 淳一



平成28年4月1日より専務理事並びに事務局長として皆様と一緒に本会の活動に携わらせていただくことになりました石川淳一と申します。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

私の経歴などを申し上げますと、学校卒業後、ほんの少しの期間ですが、設計事務所で鉄骨造の構造設計に携わり、その後、北海道庁に入り、建築指導課という建築士法など建築関連の法律に携わることになりました。設計事務所から一転、立場が変わり、おこがましいですが指導や規制といったことが主な仕事となっていました。しかしながら、法律や規則などに規制される側の感覚があり、最初は自分で話しながら、なぜこのような規程になっているのか、疑問が湧いたり、なかなか法律の趣旨などを理解するのに苦労していたことを覚えています。それでも何とか仕事を続け、建築指導課時代で最も記憶に残るものの一つに、建築士試験も所掌する係でしたので、当時、木造建築士が創設されたこともあり、受験の受付、問題の作成、試験の実施など一連の業

務に慌ただしく携わったことがあげられます。そして、そのほとんどの段階で建築士会の皆様とご一緒にご苦労をおかけしながら行っていたことが思い起こされます。ここから私と建築士会との関わりがはじまり、建築指導課から檜山支庁に異動となつてからは、檜山支部の事務局を担当し、30数年前ですが、支部の創立30周年にあたり、会員総出で式典を行ったり、檜山に残る古建築を題材とした記念誌を発行したり、このときも慌ただしく、私個人は手探りの状況ながら、支部の皆様と一緒に何とかやりきった思いがあり、有意義で楽しい思い出として記憶に残っています。この度、本会にお世話になるなか、当時の方々が今もお元気に活動されており、心強い気がしているところです。次に檜山から、十勝へ異動となり、ここでも事務局に携わり、当時は全道大会の準備が始まったところで、企画段階で十勝を離れてしまったため、最後までやりきれず残念な思いが残っています。それから時を経て、建築士会とは応急危険度判定士に関わる業務でまた一緒に仕事をさせていただくなど、思い起こしますと、私と建築士会との関わりは社会に出てから断続的ではありますが、ずっと何かの縁があるものと思っています。まだ建築屋の端くれとして何かできるのでは、と勝手に思っているところですが、また微力ではありますが、精一杯努めてまいりたいと思いますので、今後とも、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

札幌支部 支部長就任にあたり



支部長
長谷川敏文

4期7年の副支部長在任の後、平成28年より札幌支部長を受任致しました。執行役員の若返りを一気に図るために、青年委員会卒業したてで40歳代の針ヶ谷、菊池の両君を副支部長に据えて、副支部長は5人体制としました。副支部長であった池田さんには事務局長を受けていただきました。私の酒好き、ゴルフ好きの趣味趣向や性格等々のことをよく理解してくれている楽しい仲間6人と支部運営を執行しています。

鈴木前支部長、牛田前事務局長には、社会・建築業界の変化著しい時期に、今後の札幌支部事業を見定める土台作りへの牽引をしていただきました。それらの実績と効果を次の世代にしっかりと「繋ぐ(つなぐ)」ことが私の役目と心得て、札幌支部のいき

いきとした活動の推進のために尽力したいと思います。

昭和57年の入会以来、建築士会会員の期間が長いのもさることながら、毎年の全国大会、全道大会には当然の参加行事のようにスケジュールを併せて行っていました。皆様とはどこかでお会いしているのではと思いますので、今までよりも熱い親密な意見交換ができることを願っています。

札幌支部の活動のベースは「タイムリーなものはタイムリー」に「基本的なものは繰り返し」、そして「会員のスタンス」に立った事業を躊躇なくどんどん推し進めることです。

青年委員会の力強い行動力・団結力と酒力には目を見張り、女性小委員会を中心とした丁寧さがほとばしる「住教育出張講座」は、未来を見据えた大いなる可能性を強く感じさせてくれます。この勢いと流れに札幌支部の全事業を便乗させていきたいと考えています。

中標津支部 手賀邦夫さんへ



支部長
佐々木 優

3月9日、青年委員長の手賀邦夫さんが突然の事故で亡くなり、葬儀は生れ育った両親の住む津別町で行われました。

彼は、高校進学の際に津別町を離れ、釧路高専へ進学し、その後中標津町役場に就職しました。

年に何度かは両親、親戚、同級生に会いに帰っていたようです。

通夜での導師の法話は、彼の足跡をネットで調べ、中標津町での仕事ぶりや、建築士会での活動の様子を話してくれました。

彼は、建築士会の青年委員長として、児童館まつり、青年部交流会等で、青年部のリーダーとして大

いに活躍していました。

中標津町では建築指導係から街づくり推進室に数年前から移動し、町民と一緒に、今後の街づくりについての計画、地域のイベントにも手弁当で参加しており、彼はどんなときも、嫌な顔一つせずに黙々と、ニコニコ行動していた姿が目につかびます。

法話の最後に、「彼が今までやって来られた事、これからやろうとしていた事を、残された人たちは受け継いで欲しい」と言われました。建築士会の会員として、中標津町民として、これからの街づくりに欠かせない存在を失った事は非常に残念ですが、私達は、彼の意思を受け継ぎ、建築士としての役割・責務を自覚し、仲間を思いやり、精進して行きたいと思えます。

ご冥福をお祈りいたします。

笠原爺ィの釣り日誌

～DNAと背後霊「魚釣り八十八か所」の巻～

5

日本全国、札所予定地

希望は大きく、日本全国の、なるべく人の行かない岬の先、離れ島等、出来るだけ「辺鄙な場所」を選んで○印を付けてみた。今、日本は、都市集中で、過疎化が激しい。辺鄙な場所にこそ、自然が残され「良い釣り場」が有る筈と。そこは美しい日本の秘境でもある。

右に掲げた「日本全図」をご覧ください。

北海道から九州迄、海岸線の総延長は約3万軒と云う。

そして、周辺にも入れると、かなりの「広範囲」になる。

日本の国土は狭いが、これらの島々を含む「日本に領有権」のある海域を入れると、「世界で6番目の面積」になる、と。そして、海洋資源の開発は、これからの日本の、大きな権益を生む、事になる。

爺ィは、その大きさ、広さを自分の足で確かめてみたい。(イエ、夢、夢ですよ！○印を付けてみました)。

北は礼文島から、南は沖縄、石垣島。いや、マダマダあるヨ。小笠原諸島に、沖ノ島、竹島？「ア、尖閣諸島の 魚釣り島？」マサカねッ！「爺さん、アソコはダメだヨ！」「ハイハイ」 つづく



CPD認定プログラム(6月認定)

◆札幌の景観バスツアー 東区編

《日程及び会場》 7月9日(土) 9:30~17:30
札幌聖ミカエル教会他(札幌市)
《単位数》 5単位
《問合せ先》 (一社)北海道建築士会札幌支部
TEL 011-232-1843

◆HUG 避難所運営ゲーム

《日程及び会場》 7月16日(土) 14:30~17:10
北海道自治労会館(札幌市)
《単位数》 3単位
《問合せ先》 (一社)北海道建築士会
TEL 011-251-6076

◆勉強会「建築の実務を学ぶVOL.3」

《日程及び会場》 7月2日(土)他 3回
ソネビル(帯広市)
《単位数》 2単位
《問合せ先》 (一社)北海道建築士会十勝支部
TEL 0155-27-1888

道士会の動き

道本部の主な会議報告(6月)

◆平成28年支部長・支部事務局長会議

《開催日》 6月4日(土)
《議題》 1) 支部課題への対応について
2) 会員増強について
3) 平成30年全道大会(道北)について
4) 本部からのご願いについて
5) ブロック会議の次期開催時期について

◆社会貢献に関する検討会議(青年委員会)

《開催日》 6月18日(土)
《議題》 1) 社会貢献活動に関する取り組みについて
2) 全道大会青年サミット・分科会(室蘭大会)について

関係機関等会議出席状況(7月)

25日 日本建築士会連合会正副会長会議 高野会長出席
26日 日本建築士会連合会理事会 高野会長出席

道本部の主な行事予定(7月)

開催日 7月7日(木) 第2回事業委員会
開催日 7月16日(土) 被災地応急支援委員会

※お詫び

会誌226号(北海道建築士6月号) P7
苫小牧支部 荒川 浩之 様の記事が支部長・事務局と
記載されておりましたが、正しくは副支部長でした。
訂正してお詫び申し上げます。

編集後記

まずは、熊本地震により被災されました皆様、また関係者の皆様に於かれましては謹んでお見舞い申し上げますとともに、そして今だ余震が続く予断の許さない状況ではあると思いますが、皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。いよいよ第41回目を迎えます全道大会が室蘭の地で開催されますがプログラムを含め中身の充実した大会概要が発表されました。「鉄と湯けむり・大地のめぐみ」のテーマのもと皆さんで今大会を盛り上げていきましょう。情報委員会からも号外を発行し再発見を会員の皆様に届けます。

情報委員会 柏倉 晶憲(士別支部)

北海道建築士会会費の取り扱いについて

平成29年会費の請求書を11月初旬頃に翌年の会員証とともに送付予定ですので、会費の取り扱いについて改めてご案内いたします。

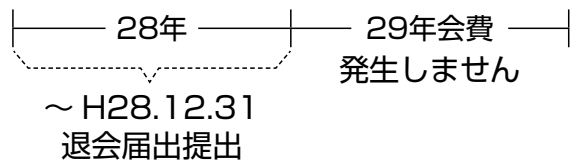
本会の会費は、年会費(1月~12月)の一括納付(会費規則第2条1項)となっており、年の途中で退会された場合でも1年分の会費が発生いたします。また、納入された会費は返還いたしません(会費規則第2条7項)。

都合によりやむを得ず退会される場合、その期日により以下のとおりとなります。

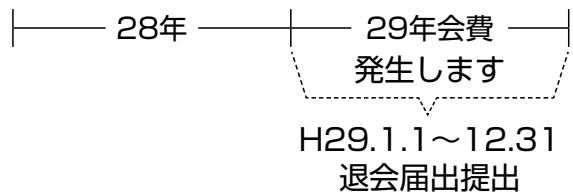
退会の届出は、所属支部へお願いいたします。

【例】

【平成28年12月31日迄に退会届提出の場合】



【平成29年1月1日以降に退会届提出の場合】



平成29年会費請求時期 平成28年11月初旬頃

※請求書を郵送します。

※会費の滞納が続きますと会誌の発行、会員としての特典が停止されます。

【お問合せ先】

(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

情報委員会委員長/早川 陽子
副委員長/齋藤 勝哉・高松 徹・森 勝利
委員/熊谷 智・柳山美保子・鈴木 雅人
柏倉 晶憲

北海道建築士 No.227号

印刷 平成28年6月/発行 平成28年7月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番